

支援機器相談シート

相談日 令和4年 7月 1日
担任名 古川 大輔

高等部 2年

相談内容

昨年度、「コミュニケーションの幅を広げたい。スイッチ遊びが好きなので楽しみながら練習できるものがないか知りたい」と相談しました。その際、「シンボルを活用する」「アプリの利用」の回答をしていただきましたが、彼にとって少し難しい様子でした。家庭の中では、簡単な言葉やジェスチャーで伝えてくれますが、こちらからの要求はあまり伝わらず、一方的なものになっています。コミュニケーションの幅を広げるために取り組める方法で、より分かりやすいものはないでしょうか。

相談結果

○昨年度の相談からの経過

昨年度、シンボルの活用や、スマートフォンアプリ「えこみゅ」を紹介していただき、家庭で実践した。

シンボルはトイレや風呂の場面で使用したが、理解・活用が難しかった。「えこみゅ」はスマートフォン自体に興味をもち、ボタンを押して遊ぶことに意識が向きやすい。絵カードを使ったコミュニケーションは、カードの意味を理解している様子が見られ、選択することもできるが、カード自体で遊ぶことにつながりやすい。

学校では、絵カードではなく、実物を示して選択する機会を設けている。

○今年度の相談結果

自分で選択・要求する機会の設定

- ・給食で食具を要求する際に、絵カードと交換する形にしたり、おやつを要求する際に、空の容器と交換する形にしたりして、毎日取り組める場面に取り入れるとよい。繰り返し取り組む中で定着していくとよい。
- ・最初は保護者や指導者が手本を見せたり、一緒に取り組んだりするとよい。
- ・リラックスできる環境で行うとよい。

見通しをもつための視覚支援

- ・家庭ではおもちゃで遊ぶ際に、おもちゃ箱の中からダイレクトに取り出して遊んでいる。引き出しなどに片付けてシンボルを貼ることで、シンボルを見て選び出せる環境を整えるとよい。
- ・絵カードや写真を活用して、1日の活動の流れが分かるようにしたり、タイムタイマーを活用したりするとよい。「今何をやる時間なのか」「いつまでやるのか」が分かるようにする。

情緒の安定

- ・授業の休み時間や場面転換の場面で、歩行や席替えをして、気持ちを切り替えられるようにするとよい。

- ・家庭でも学校でも、避難所的な、安心できる場所があるとよい。薄暗い場所や重い布団をかぶれる場所など。
- ・体のどのようなところに過敏があるのか。例えば、聴覚過敏の人は、耳から入ってくる刺激を軽減させるために、イヤーマフをしたり、部屋に防音シートを貼ったりしている。言葉がけの仕方や頻度、声の大きさなどによって、過敏を増長させてしまう可能性もある。生活の中で試していけるとよい。



睡眠について

- ・スムーズに寝入ることができず、服薬をしている。冬場は重い布団をかけることで寝入りやすかったが、夏場で薄い布団になり、夜中に歩き回ったり、大声を出したりすることが増えた。
- ・海外製ではあるがウォーターマットレスというものがあり、ウォーターベッドのようにリラクゼーション効果が期待できる。温度調整できるものもある。
- ・その日の心身の状態や前日の眠りの質によって、眠りやすさに差が出てくる。家庭と学校で睡眠の情報を共有し、リズムを整えていけるとよい。

その他

- ・全てに対応することは難しい。いろいろと気になることはあるが、家族も本人も互いに健康で過ごすことが大事。緊急性やリスクの高いことと、そうではないものに分けて考えていけるとよいのではないかと。